

科目名	情報倫理 【オンデマンド】				
担当教員名	長濱 和代				
学部等	全学共通科目		開講学期	2025年度春学期	
ナンバリング		学年	1年	単位	2単位
副題	ICT社会において未来を切り拓くための情報倫理				
科目情報補足					
事前に履修すること が望ましい科目					

この科目を通じて身につける能力要素

全学共通の能力要素	<2025年度以降入学者>批判的思考【○】、倫理的推論【○】、情報・会計・多文化リテラシー【○】、生涯学習の基盤となる知識・技能【◎】 <2019年度～2024年度入学者>普遍的な知識・技能【○】、相互理解・コミュニケーション力【○】、社会規範意識・誠実さ【◎】
学部固有の能力要素	
能力要素と授業内容の関係	情報化社会に対応するために、生涯学習の基盤となる情報リテラシーと情報倫理についての基本的な知識を身につけ、批判的思考および倫理的推論ができる目標とする。
能力要素の詳細	https://www.cuc.ac.jp/about_cuc/educational_policy/ability/index.html (2024年度以前入学者のCUC6つの能力要素は、「全学共通の能力要素」に記載します)

科目概要

インターネットを使った様々な情報サービスは、もはや私たちの生活に不可欠で、インターネットなしには何事もできない時代になっている。一方で、知らず知らずのうちにインターネットを介した詐欺や犯罪に巻き込まれたり、自らが結果的に加害者になってしまうリスクが潜んでいる。情報化社会の中で安心・安全な生活を送るために、守らなければならない事、それが情報倫理である。本講義では、応用倫理学を視野にいれつつ、学問として確立されてきた歴史と見をふまえ、情報セキュリティ、匿名とプライバシー、著作権、インターネットとパーソナルコンピューティング、ハッカー文化など、コンピュータを使う時に知っておくべき知識を蓄積する。さらに情報倫理における課題について、世の中の変化や発展を踏まえて、(インター)ネット社会がどうなるか、どうあるべきかを、SNS、メタバース、AIなどの観点からも議論することにより、ICT（情報通信技術）社会におけるウェルビーイングを考える。

科目的到達目標

本講義では、情報化社会に対応するために、情報倫理についての基本的な知識を身につけ、ネット社会で活用できることを目標とする。ネットを通じた不正取引や詐欺、ネットウイルスなどから自身を守る基礎知識を身に着け、著作権侵害や人権侵害など知らずのうちに自らが加害者にならないよう基本的な法令やルールを知る。

授業の特徴（指定科目のみ掲載）

本科目は、「千葉商科大学・数理データサイエンス教育プログラム（※）」のプログラム構成科目である。

※文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」認定済み

履修上の注意

オンデマンド形式で講義を行う。配信したPDFファイルを見ながら、音声ファイルを聞く形を基本とする。講義設定期間内にクリッカーを使って質問に答えてもらうほか、ポータルからの課題提出で出欠を判断する。以下の講義スケジュールは一応の目安であり、受講生の理解状況や社会状況に応じて内容を変更することがある。

実務経験を活かす授業	○	実務経験内容等	他大学で図書館・情報センター長として、情報倫理についての事例を蓄積してきた。また企業、大学から小学校まで幅広く教職経験がある。
PC必携		使用するソフトウェア等	

データを活用する授業

データ分析を行う		外部機関（企業等） のデータ活用する	○	その他	
----------	--	-----------------------	---	-----	--

アクティブラーニングの要素

グループワーク		プレゼンテーション		実習、実技、フィールドワーク	
PBL（課題解決型学習）		双方向型学修（クリッカー等）	○	ディスカッション・ディベート	
反転授業		その他			

授業計画

授業回	各回の概要	各回の事前事後学修	事前事後学修時間
-----	-------	-----------	----------

第1回	<情報倫理の基礎と重要性> 教員の自己紹介と授業の概要、社会で必須とされるコンピュータ、ICTの意義を通じて、情報倫理における重要性について認識する。学生の情報倫理の知識について確認をする。	配布教材や講義で指示した事例等の事前学習・事後学習。関連するweb情報の調査。	3.5時間
第2回	<デジタルコミュニケーションとデジタル社会のモラルとルール> 電子メールやSNS、メタバース等、インターネットを利用したコミュニケーションについて理解し、標準的なルールおよび合法的かつ責任あるコンピューターの利用が出来るようになる。	配布教材や講義で指示した事例等の事前学習・事後学習。関連するweb情報の調査。	3.5時間
第3回	<ネットワークの基礎知識と検索エンジンの利用> インターネット接続についてネットワークの種類、機能、性能、機器、トラブルシューティングについて理解する。 検索エンジンの基礎的、あるいは高度な利用法について確認し、検索結果の評価方法について理解を深める。	配布教材や講義で指示した事例等の事前学習・事後学習。関連するweb情報の調査。	3.5時間
第4回	<情報検索/AIの利用> 情報検索の方法を理解する。AIの仕組みについて知り、活用することが出来るようになる。データ・AI利活用事例を知る。	配布教材や講義で指示した事例等の事前学習・事後学習。関連するweb情報の調査。	3.5時間
第5回	<情報セキュリティー> Webサイトを利用する際の注意点、PCを保護するための対策として、接続設定、セキュリティ設定等の確認が出来るようになる。個人情報の流出や、ウィルスの感染を防ぐため、PCのセキュリティー上の配慮を学習する。	配布教材や講義で指示した事例等の事前学習・事後学習。関連するweb情報の調査。	3.5時間
第6回	<情報の管理と責任> コンピュータの基本的な歴史と構成を理解する。コンピュータの扱う画像、文字、およびネットワークの仕組みについて説明が出来るようになる。データ管理の原則、AIの利用と責任について理解する。	配布教材や講義で指示した事例等の事前学習・事後学習。関連するweb情報の調査。	3.5時間
第7回	<トラブルシューティング> ハードウェアおよびソフトウェアの一般的な問題解決の方法について理解し、デバイスと周辺機器の扱いについて、バックアップ、復元が出来るようになる。	配布教材や講義で指示した事例等の事前学習・事後学習。関連するweb情報の調査。	3.5時間
第8回	<プライバシーとデータ保護> 著作権、肖像権、個人情報、データの扱い方について考える。	配布教材や講義で指示した事例等の事前学習・事後学習。関連するweb情報の調査。	3.5時間
第9回	<国境がないインターネット> 海外でインターネットを利用する際の注意点、言語設定等の確認が出来るようになる。インターネットを利用したコミュニケーションの特徴を理解する。情報流通の自由と課題、偽情報について認識できるようになる。	配布教材や講義で指示した事例等の事前学習・事後学習。関連するweb情報の調査。	3.5時間
第10回	<情報倫理の課題> 国内の各業界における情報倫理の課題について把握する。各国の情報倫理の課題についても理解を深める。	配布教材や講義で指示した事例等の事前学習・事後学習。関連するweb情報の調査。	3.5時間
第11回	<情報倫理の将来> これから科学技術の発展と情報社会の変化について展望することで、世の中の変化や発展を踏まえて、ネット社会がどうなるか、どうあるべきかを、SNS、メタバース、AIなどの観点から、情報社会の可能性を考え、議論する。	配布教材や講義で指示した事例等の事前学習・事後学習。関連するweb情報の調査。	3.5時間
第12回	<応用倫理学と情報倫理> 情報倫理が倫理学や倫理哲学をベースに応用倫理学の1つであることを理解する。	配布教材や講義で指示した事例等の事前学習・事後学習。関連するweb情報の調査。	3.5時間
第13回	<情報倫理のまとめ> これまでの授業をふり返り、ICT社会におけるウェルビーイングについて考える。	レポートの提出と振り返り。	3.5時間

成績評価の方法	毎回の講義課題の提出とクリッcker参加による出席(50%)、ならびに期末レポート(50%)によって評価する。レポートでは他の識者の意見を参照・引用し、自らの意見を導き出しているかに重点を置いて評価する。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義後に提出する課題やミニレポートについて、次回講義の音声ファイル冒頭か別音声ファイルで講評を行う。また、クリッckerの結果なども講義内で説明する。
テキスト・教科書	特に指定しないが、講義内で関連図書・文献を随時紹介する。
参考文献	・独立行政法人情報処理推進機構(IPA)『情報セキュリティ白書2024』 https://www.ipa.go.jp/publish/wp-security/index.html ・高橋慈子ほか(2023)『[改訂3版]情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー』技術評論社 ・定平誠(2022)『[改訂第2版]例題100でしっかり学ぶメディアリテラシー：メディアとインターネットを理解するための基礎知識』技術評論社

